

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金企画研究プロジェクトⅠ（教員・学生参加型） 2024年度研究成果報告書

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏 名
	コミュニティ政策学科・3年	梶田乃衣
指導教員	所属・職名	氏 名
	コミュニティ福祉学部・准教授	濱田江里子
研究課題	若者の社会への問題意識と政治参画の連携促進－ZINEづくりを通して－	
研究年度	2024年度	
プロジェクト 分担者	堀江今織・櫻井晴菜・山室諒太・都倉詩織・佐々木千爽・今津奈々・櫻井理乃・下宮誠 倅	

プロジェクトの内容及び成果の概要

本プロジェクトは、若者の政治参画を促進することを目的とし、ZINE（自主制作の冊子）を通じて、選挙権年齢前後の若者に対して政治をより身近に感じてもらうことを目指した。ZINEの作成にあたりゼミ生は埼玉県議会議員との意見交換会に参加した。交換会では「若者と政治との距離をどう縮めるか、若者の政治離れについて～地方議会としては何をすべきか～」というテーマで話し合い・発表を行った。多くの議員は市民の声を大事にしており、小さなことでも相談して欲しいという思いを持って活動していることを実感した。また、議会は積極的に議会改革を行い、全世代にとって身近な議会を作ろうとしている姿勢が見られた。

そして議論の中で、若者の政治離れについて私たちは以下のような気づきを得た。①若者は、日常生活と政治の関わりを実感しにくいため、政治に興味を持ちにくい。②学校教育の中で政治に触れる機会が少なく、選挙や議会に対するハードルが高い。③「自分の意見を言っても社会は変わらない」と思い込んでいる可能性がある。

このような課題を踏まえ、「もっと若者の声を議会に届ける必要がある」と強く感じ、議員との追加インタビューや請願活動を行い、実際に政治に関わる手段に挑戦した。同時に、若者の政治離れを解決するためのコンテンツとして、政治の仕組みを説明するだけでなく、大学生である我々が政治参加を行った体験を伝え、読者が「自分も政治に関われる」と感じられるようなZINEを目指した。

実際に行ったアクションとZINEの構成は以下の通りである。

第1章「身近な政治」

ジョン・キングダンの「政策の窓」モデルを用いて、日常の困りごとがどのようにして政策課題となるのかを解説した。また、立教大学新座キャンパスの所在地である新座市の紹介や新座市中央公民館の職員へのインタビューを掲載し、日々の生活と政治のつながりを強調するような導入章とした。

第2章「体験記」

以下の6つの内容を体験記として紹介した。

①埼玉県議会との意見交換会②埼玉県議会議員へのインタビュー③朝霞市議会議員へのインタビュー④請願への挑戦⑤埼玉県議会議長との意見交換⑥埼玉県議会議員への相談

第3章「仕組みの解説」

政治に参加するために知っておくべき基礎知識を整理し、特に若者が理解しやすいように構成した。政治の基本的な仕組みや選挙のポイント、若者×政治に関するトピックを採用した。・日本の政治・選挙のキホン・候補者の選び方・候補者、投票者の偏りについて・政治に関するメディア・SNSとの付き合い方

第4章「政治参加」

実際に政治に関わる具体的な手段として、議会の傍聴を提案した。傍聴の方法やゼミ生が傍聴を行った感想を記載し、初心者でもわかりやすいものにした。

第5章「座談会」

ZINE 作成後のゼミ生同士の座談会を会話形式で紹介した。

本プロジェクトを通じて、大学生が主体的に政治参加を行い、その体験を共有することで、若者の政治参加へのハードルを下げるができたと考えている。本 ZINE を通じて、若者が政治への関心を深め、実際に政治参加への第一歩を踏み出すことができると考えている。